

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		福津市認定こども園設置検討委員会（第3回）
開催日時		令和7年10月7日(火) 午後7時から午後8時30分まで
開催場所		福津市役所別館大ホール
委員名		(1) 出席委員 田中敏明、田中沙織、井手由紀子、副田正士、 梶谷敦子 (2) 欠席委員 無し
所管課職員職氏名		こども家庭部 部長 中村雅美 教育部 部長 宮原栄介 学校教育課 課長 石井啓雅 こども課 課長 仲野浩章 係長 千原みどり 主査 上川祥也
会 議	議 題 (内 容)	1. 開会あいさつ 2. こども家庭部長あいさつ 3. 委員会運営方法 (1) 会議公開・非公開について (公開・非公開の是非) (2) 会議録の作成について 4. 検討委員会における論点の整理について 5. 参考となる事例からのシミュレーションについて 6. 認定こども園設置の方向性の検討 7. まとめ 8. その他
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	2名
	資料の名称	・会議次第 ・福津市認定こども園設置検討委員会における論点の整理 ・経費シミュレーション
会議録の作成方針		☐ 録音テープを使用した全文記録

	■録音テープを使用した要点記録
	□要点記録
	記録内容の確認方法
その他の必要事項	

審議内容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会あいさつ

2 こども家庭部長あいさつ

3. 委員会運営方法について

事務局：（１）会議の公開・非公開について、事務局としては、今回の会議は、特に個人情報など、公開することに支障がある議題はございませんので、会議については公開ということで、会議の傍聴を行わせていただきたいと思いますと考えております。次に、（２）会議録の作成についてですが、事務局では録音テープによる要点記録で議事録を作成し、会長にご確認いただいた後、各委員さんへの送付と併せて、ホームページ等に掲載したいと考えております。

会長：以上の２点についていかかでしょうか。

ご異議がないようですので事務局の提案どおり本会議は公開、会議録は要点記録とします。

事務局：本日は傍聴人が２名いらっしゃいますので、ここで傍聴人に入場していただきます。

（傍聴人着席）

4. 議事

会長：まず福津市認定こども園設置検討委員会における論点の整理について、事務局から説明をお願いします。

事務局：福津市認定こども園設置検討委員会における論点の整理について事務局から説明。

会長：「①２つの施設を統合し、認定こども園化すべきである」「②各施設の良さを活かすために、認定こども園化せず継続すべきである」これら２つの方向性のうち、それぞれのメリットやデメリットを事務局から説明いただきました。ご質問、ご意見ありますでしょうか。現時点で無いようでしたら、次の議題である参考となるシミュレーションについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：参考となるシミュレーションについて事務局から説明。

会長：大和保育所について、現状のままでも改築は必要でしょうか。

事務局：はい。修繕しながら今後、継続していくということになります。

会長：①及び②で、少しずつ焦点を絞っていければと思っています。どんなことでも結構ですので、委員の方からご意見があればお願いします。

梶谷委員：6歳未満の児童数は今後もそこまで変わらないということでしょうか。

事務局：毎年、人口推計を出しているのですが、最新の推計では、資料の通り、そこまで児童数は減少しないという結果になっています。

会長：福津市が減少しない理由について分析はしていますか。

事務局：福間駅周辺や厚生年金センター跡地が住宅地として開発され、子育て世代が多く転入されているということが要因だと思われます。

梶谷委員：子どもがいる＝働く世代が多いということなので、それだけ保育所の需要が増えてきていると思います。また、大和保育所が医療的ケア児を受け入れていることから、その点の需要も増えていていると思います。

井手委員：古賀市にも福津の1号認定の子どもたちが多く来ています。しかしながら、神興幼稚園は園児が少ないため、現状と一致していないと思います。

副会長：神興幼稚園は2年保育なので、利用者が少ないと思われます。来年度から3歳クラスも増やすということですが、どういう傾向になるか観察していく必要があると思います。

会長：仮に②の方向で行くのであれば、神興幼稚園においては、預かり保育や2歳児クラスの増設が実施可能かを検討する必要があります。現在、給食はどうされていますか。

事務局：週2回パン給食で、残りはお弁当です。

会長：このまま神興幼稚園で園児を増やすためには、お弁当の問題もありますし、また、私立幼稚園が実施しているような魅力ある取り組みを取り入れていけないと厳しいと思います。

事務局：来年度からは3歳児保育を実施しますが、3年後に1度検証することが市長部局からの意見にありましたので、今後実施する予定です。預かり保育など新たな取り組みを実施していくためには、市の財政状況を鑑みると現状ではなかなか難しいと思われます。

井手委員：まず①及び②の中で、一番の課題は何だと思われますか。

事務局：①については、どのように財源を確保するのか、どのように建設するのか、そうした点が大きな課題だと思われます。②については、両施設を管理しないといけないので、かなり財政的に厳しいという点と、神興幼稚園の園児数が減少した場合に、園として維持ができるのか、維持が困難になっ

た場合、私立から断られた子どもたちは居場所がなくなるのではないかと、という点において課題があります。

井手委員：当園は３年前に建て替えました。木を使って建てた園なのでかなり負担はありました。あれから３年が経過したので、建設にかかる費用はかなり値上がりしていると思います。公立と私立では補助率も違うのでしょうか。

会長：私立の方が補助率は高いと思われます。

事務局：認定こども園化した場合も、幼稚園部分は、国から三分の一の補助があります。残りの部分は公共施設を集約するというので、国の交付税措置がある起債事業など使えるものがないか研究することはできると考えています。

井手委員：今は色々なものが値上がりしているので、少しでも早い時期に建て替えないといけないのではないかと思います。また、大和保育所を実際に見させていただいて、今後も、子どもたちが安全に生活できるのか、色々感じるところはありました。

梶谷委員：待機児童を解消するため、元々９０人定員だったところを、安全に配慮をしつつ、１３０人定員に変更しました。ただし、様々な点において、改善が必要な部分は多くあると思います。

事務局：やはり現状のままでやるのは難しいので、最低でも増改築は必要だと思います。そうした点を改善しなければ認定こども園にはならないと考えています。

副会長：①及び②の双方で財源が課題になっていますが、どちらが子どものため、保護者のためになるのかということを考える必要があると思います。シミュレーションを見させていただきましたが、人数を少し絞って、保育室やトイレの面積を増やす、ということが分かりました。現状と比較すると、子どもにとっては面積が広がるので、快適な環境になるのではないかと思います。そして、ただ単純に保育室を増やすとか、トイレを増やすという話だけではなく、例えば医療的ケア児のために必要な施設や、導線など、そうした点もあわせて改善していくことができれば、私個人の意見としては①が良いかと思います。

会長：認定こども園化に関して、現場の先生からご意見はあがっていますか。

事務局：幼稚園としては、現在、小学校との連携が密に取れているため、できれば、今の場所で継続したいという思いはあると推察しています。しかし、公立幼稚園を含めた公立認定こども園を検討する必要があるとの意見が出ているので、今の場所での建て替えは現実的に難しいということも分かっていると思います。

会長：認定こども園になった場合に考えられる課題はありますか。

井手委員：認定こども園となれば、これまで幼稚園の先生だった方々には、3号の子どもたちに慣れていないため、最初は戸惑いがあると思います。また、施設を設計する際は、保育を経験している方が主体的に動かなければ、後々使いづらい点が発覚したりすることがあるので、注意が必要です。

事務局：先ほど現場の先生についてのお話がありましたが、大和保育所ではもともと民営化という話は出ていたため、職員も危機感を持っていると思います。公立を維持していくためには、認定こども園化も検討する必要があると、大和保育所の園長や主任をはじめ、そのように感じていると推察しています。

会長：認定こども園になった場合、その形態についてですが、保育所型となると保育所の要素が強い施設になりますので、これまでの各施設の取り組みを鑑みれば、できれば幼保連携の方がいいのではないかと感じています。私立・公立、それぞれに良さがあるのは間違いありません。しかし、財政的な面や、園児が減っていくということを鑑みれば、理想だけではなかなか難しい点があると思っています。

副会長：小学校との連携や研究ではないところにニーズが向かっていると考ええると、認定こども園化が相応しいのではないかと感じています。

副田委員：皆さんは何かしらパートタイムなどでも働かれていますので、時代のニーズを考えれば幼稚園を存続させることは困難だと思います。仮に認定こども園となり、2・3号の定員を100人にした場合、受入人数は少ないと思うので、待機児童が増えるのではないのでしょうか。

事務局：すぐに両施設を統合し、認定こども園にすることは考えていません。認定こども園化が基本的な方向性として決定した場合に、今後、どのようにして各種の課題を解決していくかを検討していきたいと考えています。大和保育所において、手狭になっている点は改善しながら、ニーズに沿ったものに変えていくことは今後必要となることだと思います。

会長：「①2つの施設を統合し、認定こども園化すべきである」を基本的な方向性と決めさせていただきます。これを機会に、様々な点を見直していきながら、進めていきたいので、改善点などを次回の会議までに考えていただければと思います。

事務局より日程調整の案内。

次回会議は1月20日（火）午後7時に福津市役所にて開催することで決定。

事務局：本日はご審議いただきありがとうございました。これで第3回福津市認定こども園設置検討委員会を終了します。